

日本子ども社会学会  
第21回大会 プログラム

2014年6月28日(土)・6月29日(日)

敬愛大学

# 日本子ども社会学会 第21回大会 プログラム

## 大会の日程

1. 期日 2014年6月28日(土)・29日(日) 2日間
2. 会場 敬愛大学(稲毛キャンパス:千葉県稲毛区)
3. 日程

### 前日 6月27日(金)

15:00 ~ 16:50 各種委員会 (3号館7階3701~2)

17:00 ~ 19:00 理事会 (3号館7階3701~2)

### 第1日 6月28日(土)

9:00 ~ 受付 (3号館1階 ラウンジ)

9:40 ~ 12:00 研究発表Ⅰ (3号館 3~4階)

12:00 ~ 12:30 昼食 (学内食堂)

12:30 ~ 13:20 総会 (3号館4階3401教室)

13:30 ~ 15:30 テーマセッション (3号館4階3401教室、  
3号館4階3404教室)

シンポジウム1 (3号館4階3406教室)

シンポジウム2 (3号館4階3301教室)

15:40 ~ 18:00 シンポジウム3 (3号館4階3406教室)

18:10 ~ 20:10 懇親会(3号館1階 ラウンジ)

### 第2日 6月29日(日)

9:00 ~ 受付 (3号館1階 ラウンジ)

9:30 ~ 12:00 研究発表Ⅱ (3号館 3~4階)

12:00 ~ 13:20 昼食 (学内食堂)

評議会 (3号館7階3701-02教室)

各種委員会 (3号館6~7階)

13:20 ~ 15:20 研究発表Ⅲ (3号館 3~5階)

15:30 ~ 17:30 ラウンドテーブル (3号館 3~5階)

## ご案内

- 1 **会場** 敬愛大学 稲毛キャンパス
- 2 **大会実行委員会連絡先**  
〒263-8588 千葉市稲毛区穴川1丁目5番21号  
敬愛大学 国際学部こども学科 気付  
日本子ども社会学会 第21回大会実行委員会  
E-mail fwne3137@mb.infoweb.ne.jp (こども学科 武内 清)
- 3 **入会、学会費納入などに関する問い合わせは、学会事務局 ([jscs@kodomo-cu.jp](mailto:jscs@kodomo-cu.jp)) にお願ひします。**
- 4 **大会参加費** 学会員 3,500円 大学院生 3,000円 臨時会員 2,000円
- 5 **懇親会** 6月28日(土) 敬愛大学3号館1階ラウンジ  
会費 一般会員・臨時会員 4,000円、大学院生・学生 3,000円
- 6 **発表時間**  
個人発表：発表20分・質疑応答5分  
共同発表：発表40分・質疑応答10分
- 7 **発表取り消し**  
発表の取り消し、および発表日時の変更は原則として認めていません。発表の取り消しの場合は、早急にお知らせください。学会ニュースに掲載いたします。
- 8 **当日発表資料**  
レジュメ等の発表資料を配布される場合は、50部以上ご用意ください。不足の場合、大会本部でのコピーはできません。学内及び近隣にコピーのできる場所はありません。
- 9 **クローク**  
6月28日(土)、29日(日)に、18時まで、3号館4階3405教室に用意します。  
なお貴重品はお預かりできませんので、各自でお持ち下さい。
- 10 **会員休憩室** 下記をご利用下さい。  
3号館4階 3403教室、3号館1階 ラウンジ

## 11 昼食

28日（土）、29日（日）とも、お昼のみ、学内食堂が営業しています。ただし、メニューは、限定されたものになりますので、ご了承下さい。近隣は、ほとんど店舗がありません。

## 12 宿泊について

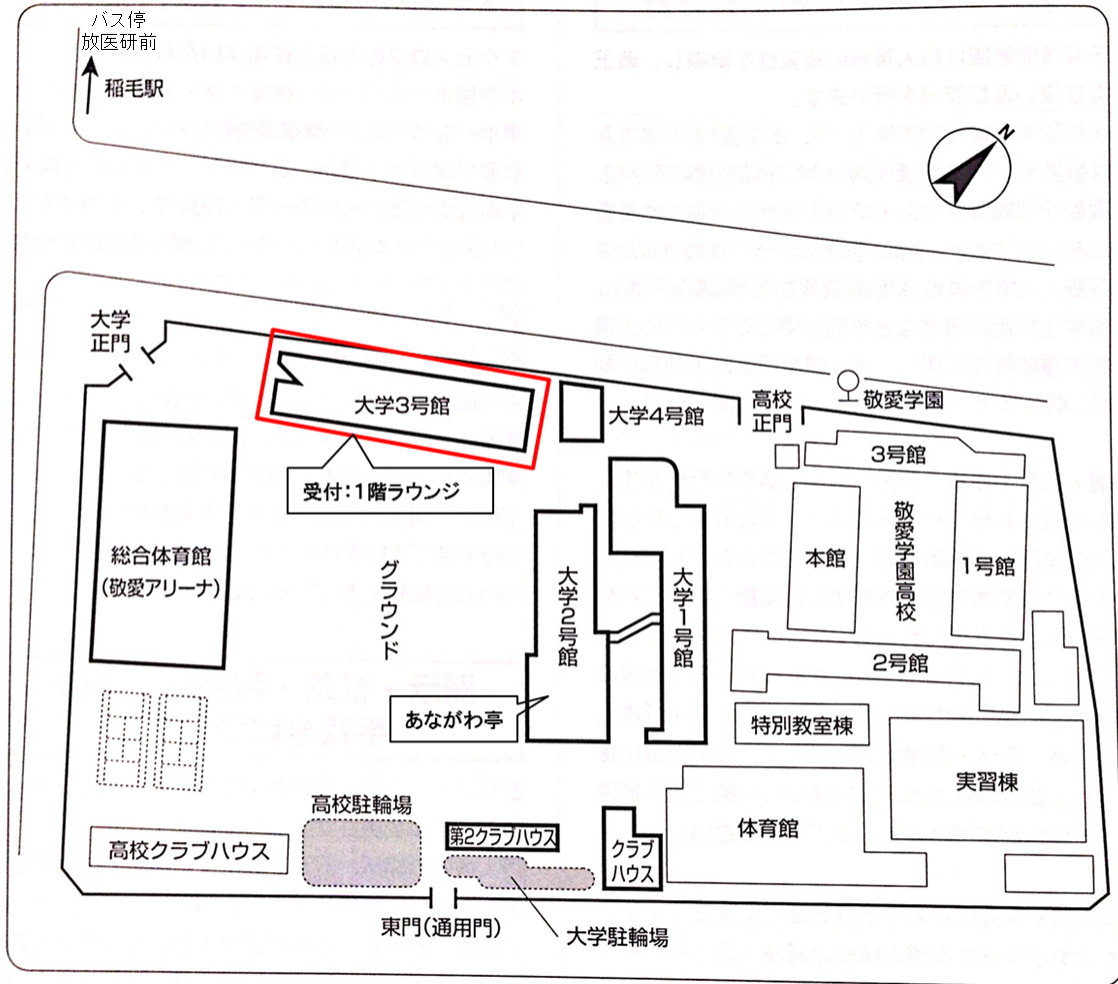
ホテルは、JR 千葉駅周辺が一番便利です（千葉—稲毛間はJR で5分）。JR 海浜幕張駅近辺にも多くのホテルがあります。大会校のホームページにホテル案内を掲載しました。

### 敬愛大学 稲毛キャンパスへのアクセス

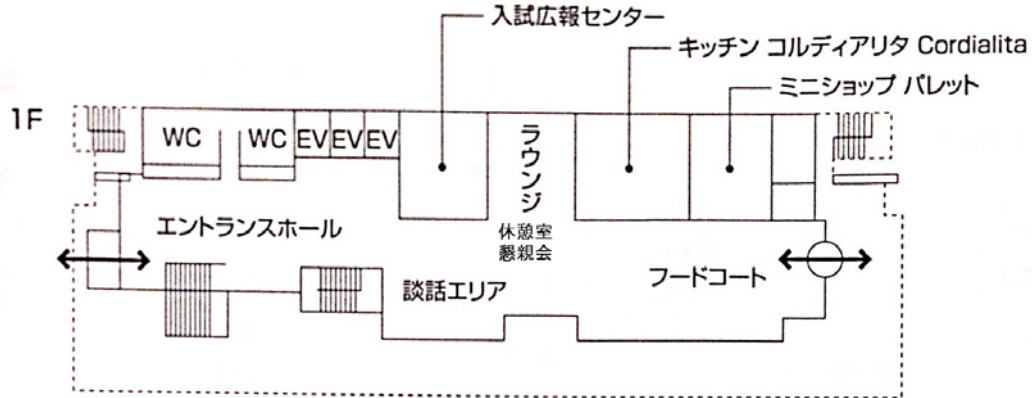


稲毛駅からのバスは、1つ目の「放医研前」（現金払いで100円）下車が便利です。

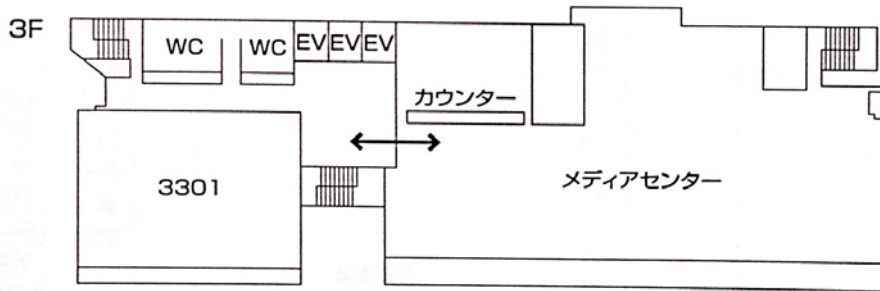
# 敬愛大学 稲毛キャンパス 構内案内図



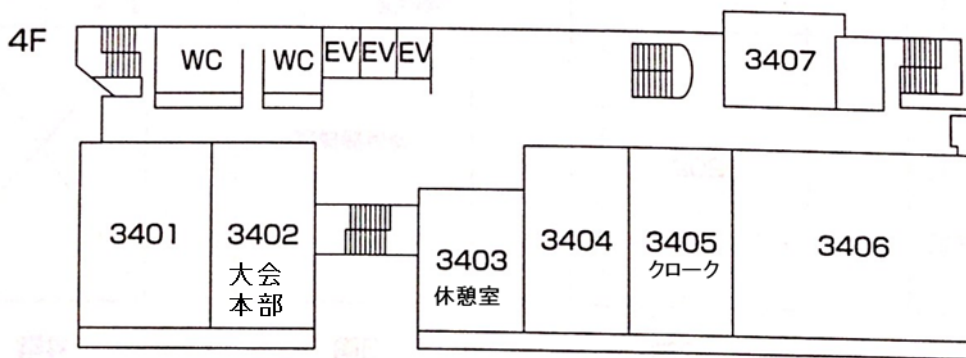
# 会場案内図 (1)



## 1階ラウンジ:受付



3301 教室:シンポジウム 2・研究発表 I-1 / II-1・特設ラウンドテーブル  
ラウンドテーブル1

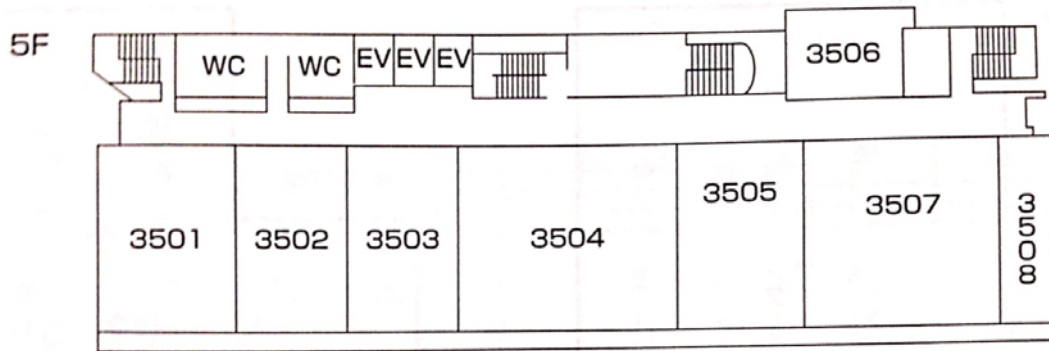


3401 教室:研究発表 I-2 / II-2 / III-1・ラウンドテーブル 2・総会

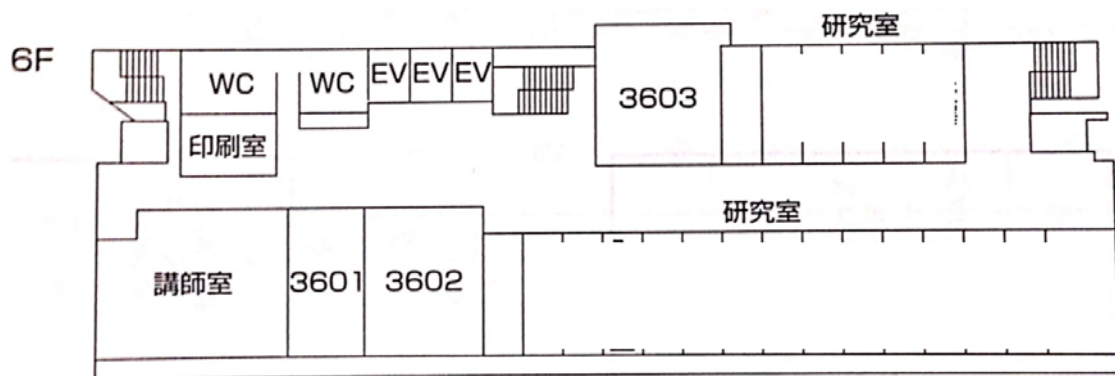
3404 教室:研究発表 I-3 / II-3 / III-3・テーマセッション 1 / 2・ラウンドテーブル 3

3406 教室:シンポジウム1・シンポジウム3・研究発表 I-4 / II-4 / III-4  
ラウンドテーブル4

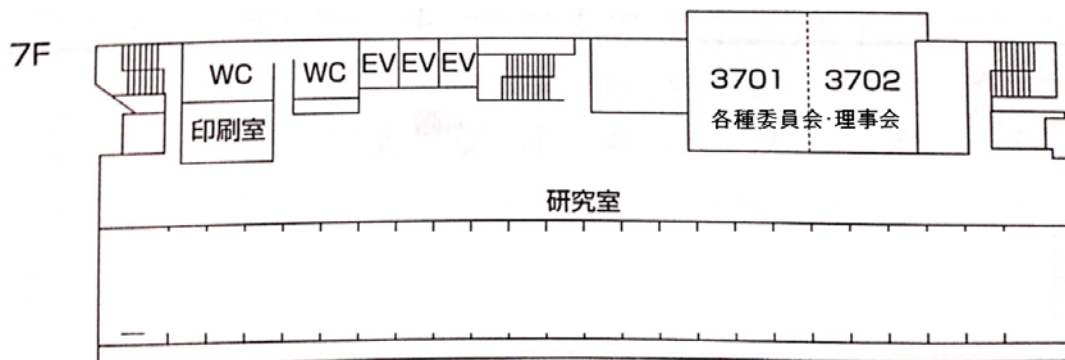
## 会場案内図 (2)



3504 教室:ラウンドテーブル 5



6階:各種委員会



## 研究発表 I

2014年6月28日(土) 9時40分～12時  
3号館3階 3301教室

### I-1 【家庭と教育】

司会 神長 美津子 国学院大学  
田中 理絵 山口大学

9時40分～10時5分

中高生の母親の就労についての認識は、東京都内でも異なるのか？

白田 明子 昭和女子大学

10時5分～10時30分

学齢期の子どもを持つ母親の教育的態度

片桐 真弓 尚絅大学短期大学部

10時30分～10時55分

「子どもの学校外学習選択」に関する母親の戦略

—母親自身の過去の学習経験に着目して—

木村 治生 ベネッセ教育総合研究所

10時55分～11時20分

教育環境としての家族についての日中比較

○深谷 野亜 松蔭大学

深谷 昌志 東京成徳大学(名)

秦 政春 上海海洋大学・同済大学

11時20分～11時45分

飯田市の幼稚園・保育園への人形劇の導入

—いいだ人形劇フェスタとの関係から—

松崎行代 京都女子大学

11時45分～12時 総括討論



## 研究発表 I

2014年6月28日(土) 9時40分～12時  
3号館4階 3401教室

### I-2 【子どもの歴史】

司会 川勝 泰介 京都女子大学  
山田 浩之 広島大学

9時40分～10時5分

児童雑誌『おとぎの世界』、『金の船』(『金の星』)における子ども読者意識の形成  
田中 卓也 共栄大学

10時5分～10時30分

昭和初期の家庭教育としての音楽鑑賞  
—鑑賞教育啓蒙書にみる音楽観・音楽教育観—  
寺田 貴雄 北海道教育大学

10時30分～10時55分

日本における戦前期の児童虐待問題と「教育の対象としての児童」の構築  
高橋 靖幸 立正大学

10時55分～11時20分

戦前日本における幼稚園の府県別設置状況の推移  
佐野 友恵 武庫川女子大学

11時20分～12時 総括討論

## 研究発表 I

2014年6月28日(土) 9時40分～12時  
3号館4階 3404 教室

### I-3 【子どもと言説】

司会 山田 富秋 松山大学  
古賀 正義 中央大学

9時40分～10時5分

子ども像に関する一考察

—預かり保育をめぐる保育者の「子ども」認識に着目して—

清水 美紀 お茶の水女子大学大学院

10時5分～10時30分

1990年代以降における「気になる子ども」カテゴリーの変遷

末次 有加 大阪大学大学院

10時30分～10時55分

軽度知的障害の中学生における特別支援学校経験

—「状況の定義」の変遷に着目して—

堤 英俊 都留文科大学

10時55分～11時20分

「いじめ」をめぐる人々の〈語り方〉はどう変化したか

—新聞投書欄にみる言説の通時的分析を通じて—

桜井 淳平 筑波大学大学院

11時20分～11時45分

「子どもの防犯」はどのように語られてきたのか

大嶋 尚史 筑波大学大学院

11時45分～12時 総括討論

## 研究発表 I

2014年6月28日(土) 9時40分～12時  
3号館4階 3406教室

### I-4 【子どもと遊び】

司会 岩田 遵子 東京都市大学  
青井 倫子 愛媛大学

9時40分～10時5分

公共図書館における「親子でたのしむわらべうた」  
落合 美知子 おはなしとおんがくのちいさいうち

10時5分～10時30分

客家土楼における子どもの遊びに関する考察  
—遊び空間と近隣の交流に着目して—  
劉 秀鳳 九州大学大学院

10時30分～10時55分

大人の遊び経験と子どもとの遊びについて  
○新田 司 千葉敬愛短期大学  
吉村 真理子 千葉敬愛短期大学  
清水 一巳 千葉敬愛短期大学

10時55分～11時20分

大人の生活体験と遊び観について  
○吉村 真理子 千葉敬愛短期大学  
新田 司 千葉敬愛短期大学  
清水 一巳 千葉敬愛短期大学

11時20分～11時45分

生活環境と子どもの遊びについて  
○清水 一巳 千葉敬愛短期大学  
吉村 真理子 千葉敬愛短期大学  
新田 司 千葉敬愛短期大学

11時45分～12時 総括討論

## 【テーマセッション1】

2014年6月28日(土) 13時30分～15時30分  
3号館4階 3404教室

### テーマ

子ども社会研究の科学基盤の探求～ 歴代理事が探求した子ども社会学研究～

#### 【司会・討論者】

小針 誠 同志社女子大学  
元森 絵里子 明治学院大学

#### 【話題提供者】

上杉 孝實 京都大学名誉教授  
理事期間：平成7～8年度、平成13～14年度  
評議員期間：平成19年度～現在

住田 正樹 放送大学教授／九州大学名誉教授  
理事期間：平成7～22年度（会長：平成19～22年度）  
評議員期間：平成25年度～現在

#### 【内容】

2014年をもって、日本子ども社会学会は創立20年を迎え、研究の対象・関心や方法・理論等において新しい局面(フェーズ)に入りつつある。学会草創期を知らない若手・中堅の会員も増えた中、既存の学問枠組みに収まらない子ども研究の学際学会を立ち上げたときの「熱気」を振り返りつつ、これからの子ども(社会)研究の科学的な基盤のあり方そのものから、本学会の具体的な課題や方向性まで、幅広く議論する場を設けたい。

本セッションでは、これまで日本子ども社会学会の理事として学会の運営や研究をリードしてきた2名の元理事に、それぞれのこれまでの子どもに関わる研究歴(対象・関心・方法・理論・子ども観)や本学会での活動歴などを踏まえて話題提供をしていただく。中堅・若手会員からの質疑も交えて、当時の思いや理念とともに、現時点での到達点や問題点などについて語っていただきながら、世代を超えた「対話」を通じて、これからの子ども研究や本学会のあり方について探求する。話題提供者は、上杉孝實氏と、住田正樹氏である。

## 【テーマセッション2】

2014年6月28日（土） 13時30分～15時30分  
3号館4階 3401教室

### テーマ

子ども・子育て支援新制度について考える  
～認定こども園は子どもの生活にどうかかわるのか～

### 【司会】

山縣 文治 関西大学

### 【話題提供者】

柿沼 平太郎 認定こども園こどもむら  
米谷 光弘 西南学院大学  
増田 まゆみ 東京家政大学

### 【内容】

2012年8月、子ども・子育て支援法が成立し、2015年度から本格実施となる。新法に基づき、保育と教育を総合的に提供する幼保連携型認定こども園が新たに制度化される。幼保一体化は、昭和初期から何度か議論となったが、まとまることなく二元体制が維持され続けた。

学校であり児童福祉施設でもある幼保連携型認定こども園は、乳幼児期の子どもの生活世界に大きな変化をもたらすものと考えられる。当面は、三元体制となるが、将来的には収斂させていくことも目標とされている。

本セッションでは、認定こども園制度とその実践について、会員とともに考えたいと思う。話題提供は、幼保連携型認定こども園の実践者である柿沼平太郎氏、総合施設としての実践の時代から全国調査を実施してこられた米谷光弘氏、幼保連携型認定こども園保育要領（仮称）の策定に関する合同の検討会議委員である増田まゆみ氏である。

## 大会シンポジウム 1 (公開)

2014年6月28日(土) 13時30分～15時30分  
3号館4階 3406教室

### 1 テーマ 「震災後の子ども、学校、地域社会」

#### 2 報告者

徳水 博志 元石巻市立雄勝小学校  
被災児への心のケア

堀 健志 上越教育大学

被災地の学校教育がつけつけるもの—学校エスノグラフィーを手がかりに—

榎田 久代 敬愛大学

大学教育における被災地ボランティア活動—日常と非日常の交錯—

長谷川 信 千葉市生活文化・スポーツ部

防災教育の視点から

#### 3 討論者

森 俊英 宮城県教育委員会東部教育事務所(非)、

村瀬 光生 敬愛大学

#### 4 司会者

岡崎 友典 放送大学

#### 5 内容

東日本大震災と子どもの問題については、これまでに2回ほど本学会大会でも、議論を積み重ねてきました。震災から3年が経過した今、私たちはこの大震災から何を学び、そして何をなさなければならぬかについて、再度考えたいと思います。子どもの心理的ケアを意識した教育実践、震災後の学校のあり方、学生の被災地でのボランティア活動の意味、地震大国の日本の「防災教育」の重要性などを取り上げます。子どもたちにいかに防災の大切さ伝えるか、学校だけでなく地域社会が一体となった実践が求められています。その一助になるシンポジウムになることを願っています。

シンポジウムでは、まず、報告者の徳水博志氏には、被災地の教育現場の立場から、町の中心部の90%が壊滅、20mの津波で壊滅した勤務校の仮校舎での『復興教育』の実践、【「震災体験の対象化」による被災児《心のケア》の試み】(東京書籍・中央研究所「第29回東書教育賞最優秀賞受賞論文」)を元に、子どもの心のケアについて、つぎに、堀健志氏には、現地での詳細な質的調査を元に、震災後と学校について、「学校エスノグラフィー」の手法を用いた「授業と学校の改善」ための理論と実際 さらに 学校文化の改革の課題などについて、さらに、榎田久代氏からは、敬愛大学が「被災地ボランティア活動」を大学教育の一貫として取り入れ、宮城県(名取市)の被災地での活動体験が、学生たちにどのような教育上の効果と影響をもたらしたかについて、そして、長谷川信氏には、千葉県教育委員会が、大震災後に3年かけて作成した「学校における【地震防災】マニュアル」(平成24年3月発行)に指導主事として参画した体験を元に、千葉県の学校の「防災教育」の取り組みの現状と課題について、以上4氏の報告を元に、森英俊氏と村瀬光生氏に討論に加わっていただき、これまでの実践や体験から、本シンポジウムのテーマを深めていただきます。

## シンポジウム 2 (公開) (敬愛大学総合地域研究所と共同開催)

2014年6月28日(土) 13時30分～15時30分  
3号館3階 3301教室

### 1 テーマ 「子どもに食(フード)と農(アグリ)をどのように教えるのか」

### 2 コーディネーター

村川 庸子 敬愛大学

### 3 報告者

紺野 和成 日本政策金融公庫 千葉支店

三幣 貞夫 南房総市教育委員会

熊澤 幸子 東京成徳大学

### 4 討論者

池谷 美佐子 敬愛大学

田中 未央 敬愛大学

### 5 内容

敬愛大学で「国際学部でアグリ？」と題する教育活動を始めて4年が経過した。何か、他大学の国際学部にはなくて、身近で、しかも国際的なテーマはないか。そんなところから企図したものであった。

今年のシンポジウムでは、「食育」の問題を取り上げた。平成17年6月17日制定の食育基本法の前文にも21世紀に向け、「子どもたちが健全な心と身体を培い、未来や国際社会に向かって羽ばたくことができるように」と謳われ、そのためには「食」が「生きることの基本」であり、「知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの」と位置づけられている。「様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる」こと、他方で、社会経済情勢のめまぐるしい変化、忙しい日々の生活の中で、人々が「食」の重要性を忘れがちな状況が指摘される。栄養の偏り、不規則な食事、肥満、生活習慣病や過度の痩身などの日常的な問題や、「食」の安全、海外への依存、「食」に関する情報の氾濫、などの構造上の問題も指摘されている。更には都市と農村漁村の共生・交流、消費者と生産者の信頼関係、地域社会の活性化、豊かな食文化の継承及び発展、環境との調査、等々。実に多くの問題が関わっていることが明示される。更に8年前にはまだ顕在化していなかった食品偽装、TPP、放射線問題(風評被害を含む)等々、国内的、国際的な視野も欠かせない。

本学の「アグリ」では何かの「解答」を求めるのではなく、まずは各分野で問題はいつでもあり、どのような試みがなされているのかを探るところから活動を開始している。行動の指針は「Something different」を探ること。「これまでとは違うこと、他とは違うこと」を学生と共に探している。これが本学の「食育」ということになるだろうか。本日、お願いしたパネラーの方々もいずれもこれに該当するの方々である。ご期待いただきたい。

## シンポジウム3 (公開)

2014年6月28日(土) 15時40分～18時00分  
3号館4階 3406教室

### 1 テーマ 「子どもの昔と今—子ども研究の饗宴」

### 2 コーディネーター

武内 清 敬愛大学

### 3 報告者

藤田 英典 共栄大学、東京大学(名)、(日本教育学会会長)

生活環境の構造変容と子ども問題の諸相

池田 曜子 流通科学大学

現代の子ども—中高校生の友人関係の参与観察からの考察

谷川 彰英 東京成徳大学、筑波大学(名)

柳田国男の子ども論—民俗学における「子ども」

原田 彰 広島大学(名)

日本の知識人がみた〈子ども〉—1970・80年代の言論から—

### 4 討論者

深谷 昌志 東京成徳大学(名)

多賀 太 関西大学

### 5 司会者

加藤 理 文教大学

### 6 内容

「子どもの昔と今—子ども研究の饗宴」と題して、学会外からは、日本教育学会会長の藤田英典氏(東京大学名誉教授)と柳田民俗学の権威の谷川彰英氏(筑波大学名誉教授)をお招きし、本学会から原田彰会員、深谷昌志名誉会員という会長経験者が登壇し、新進の研究者の池田曜子氏、多賀太氏が参加し、子どもの今と昔を巡り、研究視角、研究方法をまじえて総合的、学際的な議論を致します。

藤田氏が子ども社会研究の総合的フレームを示し、谷川氏が昔の子どもを語り、池田氏が現代の子どもの実態を報告し、原田氏が言説研究から報告し、それに深谷氏、多賀氏がそれぞれの立場から鋭く切り込み、議論を深めるという構図を想定しています。

この議論の中から、現代の子ども(社会)研究の課題が明らかになり、今後の研究の方向が示唆されればと思います。



## 研究発表Ⅱ

2014年6月29日(日) 9時30分～12時  
3号館3階 3301教室

### Ⅱ-1 【保育実践】

司会 麻生 武 奈良女子大学  
夏秋 英房 国学院大学

9時30分～9時55分

絵本におけるオノマトペ表現が保育にもたらす効用について  
山崎 英二 東京学芸大学大学院

9時55分～10時20分

保育士養成校での手遊びの実践について  
鈴木 えり子 華頂短期大学

10時20分～10時45分

「もしも」の語り合いが開く子ども理解の可能性  
：プロセスから子どもの経験を振り返る園内研修の試み  
○境 愛一郎 日本学術振興会特別研究員  
濱名 潔 広島大学大学院  
保木井 啓史 広島大学大学院  
中坪 史典 広島大学

10時45分～11時10分

保育者は自園／他園の写真からどのような推論を行うか  
—保育環境の写真をもとに語り合う園内研修—  
○保木井 啓史 広島大学大学院  
濱名 潔 広島大学大学院  
境 愛一郎 日本学術振興会特別研究員  
中坪 史典 広島大学

11時10分～11時35分

新任教諭の言説にみる保育者意識  
多田 琴子 神戸常盤大学

11時35分～12時 総括討論

## 研究発表Ⅱ

2014年6月29日(日) 9時30分～12時  
3号館4階 3401教室

### Ⅱ-2 【養育困難と子ども】

司会 松澤 員子 神戸女学院大学  
坂入 明 東京家政大学

9時30分～9時55分

思春期の妊娠

梅原 佐知子 明保中学校

9時55分～10時20分

生活困窮世帯の子どもの学習支援事業に関する実践的研究

—沖縄県名護市学習支援教室びゅあを事例として—

嘉納 英明 名桜大学

10時20分～10時45分

中国都市部における産育(月子)文化の再構築

—月嫂の受容と抵抗をめぐって—

翁 文静 九州大学大学院

10時45分～11時35分

里親の養育困難に関する考察—里親全国調査(平成25年度)の結果から—

1) 虐待された子どもとその影

深谷 和子 東京学芸大学(名)

2) 里親の養育困難の背景

深谷 昌志 東京成徳大学(名)

11時35分～12時 総括討論

## 研究発表Ⅱ

2014年6月29日(日) 9時30分～12時  
3号館4階 3404教室

### Ⅱ-3 【教育実践】

司会 南本 長穂 関西学院大学  
新富 康央 国学院大学

9時30分～9時55分

「授業ルール」を子ども同士で学習し合うプロセス

—小学4年生の教室の事例分析

笹屋 孝允 東京大学大学院

9時55分～10時20分

若年教師の〈学級づくり〉の変化

—「少数」の子どもから「学級全体」へ—

○秋山 さやか 愛媛大学大学院

白松 賢 愛媛大学

10時20分～10時45分

学校・地域による教育のちがいと教材のデジタル化

—学力、生徒指導、研修等に関する教師の”想い”を中心に—

○鈴木 秀男 台東区教育委員会(非)

岡崎 友典 放送大学

10時45分～11時10分

不登校経験を持つ若者の進路形成

尾場 友和 広島大学大学院

11時10分～11時35分

私立通信制高校サポート校生徒の制服着装行動に関する事例研究

—なぜ「前籍校」の制服を着るのか—

内田 康弘 名古屋大学大学院

11時35分～12時 総括討論

## 研究発表Ⅱ

2014年6月29日(日) 9時30分～12時  
3号館4階 3406教室

### Ⅱ-4 【地域と教育】

司会 高島 秀樹 明星大学  
富江 英俊 関西学院大学

9時30分～9時55分

子どもが自身の生活を記録する意味の再検討  
—郷土教育運動を手がかりに—  
牧野 修也 神奈川大学(非)

9時55分～10時20分

義務教育学校の統廃合の変遷に関する歴史的研究  
—石巻市雄勝地区の事例を通して—  
森 俊英 宮城県教育委員会東部教育事務所(非)

10時20分～10時45分

地域活性化と高校教育  
樋田 有一郎 一橋大学大学院

10時45分～11時10分

地域教育の展開可能性  
—教育委員会、学校、自治会、子ども会の連携—  
春日 清孝 明治学院大学(非)

11時10分～11時35分

学校教育の活性化に及ぼす同窓生と地域住民の連携力  
—教師だけの学校教育の限界と対策の模索—  
黄 順姫 筑波大学

11時35分～12時 総括討論

## 研究発表Ⅲ

2014年6月29日(日) 13時20分～15時20分  
3号館4階 3401教室

### Ⅲ-1 【青少年と教育】

司会 加野芳正 香川大学  
片山悠樹 愛知教育大学

13時20分～13時45分

高校生にとっての読書の効果

—ある私立女子高を事例にして—

清水 あかね 放送大学大学院

13時45分～14時10分

「大人になる」ことをめぐる社会＝空間に関する研究

尾川 満宏 山口県立大学

14時10分～14時35分

子ども期の経験が青年期に与える影響

—大学生調査から—

○浜島 幸司 同志社大学

武内 清 敬愛大学

14時35分～15時

教員養成系学部・学科の求める学生像

—設置年度・選抜性・アドミッションポリシーを中心に—

佐野 秀行 大阪人間科学大学

15時～15時20分 総括討論

### 研究発表Ⅲ

2014年6月29日(日) 13時20分～15時20分  
3号館4階 3404教室

#### Ⅲ-2 【国際研究】

司会

藤井 美穂 熊本大学

白松 賢 愛媛大学

13時20分～13時45分

近代イギリスの子ども部屋におけるナニーの教育的役割についての考察

藤田 泉 平成音楽大学

13時45分～14時10分

アジア系アメリカ人の教育—その「成功」と課題—

井口 博充 大東文化大学

14時10分～14時35分

『生—権力』からみた対象としての子ども—アメリカ教育政策を事例に—

大倉 健太郎 大阪女子短期大学

14時35分～15時

「解釈的アプローチ」による子ども研究の展開過程

池田 隆英 岡山県立大学

15時～15時20分 総括討論

## 研究発表Ⅲ

2014年6月29日(日) 13時20分～15時20分  
3号館4階 3406教室

司会 永井 聖二 東京聖徳大学  
流石 智子 華頂短期大学

### Ⅲ-3 【子ども支援】

13時20分～13時45分

プレーワーカーの育ちに関する研究  
白坂 正太 九州大学大学院

13時45分～14時10分

放課後児童クラブの実態と理想  
—指導員の望む理想的なあり方とは—  
中田 周作 中国学園大学

14時10分～14時35分

大阪市子どもの家事業廃止後の取り組みについての考察  
三好 正彦 大阪女子短期大学

14時35分～15時

社会運動としての保育所民営化反対裁判  
東野 充成 九州工業大学  
○山瀬 範子 國學院大學

15時～15時20分 総括討論

## 特設ラウンドテーブル (公開)

2014年6月29日(日) 13時20分～15時20分  
3号館3階 3301教室

### 1. テーマ 日韓における子どもと学校教育・学校生活

### 2. コーディネーター・司会者

黄 順姫 筑波大学

### 3. 報告者

1) 金 世坤(KIM, SE GON) 東國大學校幼児教育科 教授

金 秀東(KIM, SOO DONG) 東國大學校教職科 教授

韓国・日本における「放課後子ども教室」政策の比較—比較分析からの知見を通して—

2) 金 世 坤 (東國大學校 幼児教育科 教授)

崔 滯允 (CHOI, JUNG YOON) 東國大學校 大学院

南 炅玟 (NAM, KYUNG MIN) 東國大學校 大学院

韓国の幼稚園における「放課後子ども教室」の現状—事例研究を通して—

3) 黄 順姫 筑波大学

学校教育が生成する子どもの身体と体罰—日本と韓国の社会的・文化的構造として—

### 3. 討論者

加藤 幸次 上智大学(名)

### 4. 内容

このたび、特設ラウンドテーブルでは、「日本と韓国における子どもと学校教育・学校生活」をテーマにしています。韓国からは、「韓国日本教育学会」の会長である金秀東教授、副会長の金世坤教授が当該学会の訪問を兼ねて来日し、発表を行います。また若手研究者たちも参加し発表を行います。

日本と韓国の子どものたちの教育、学校生活、及び放課後の活動を、子どもの発達段階である幼児、児童、青少年を対象に取り上げて比較検討を行います。1990年代以後、日本と韓国では大きく社会的・経済的・文化的変動が生起し、構成員は子どもの学校教育に対する制度・政策の変化だけでなく社会階層の格差拡大・再生産に至るまでマクロな変化を経験しています。さらに、ポストモダンの深化や IT の進展にともない社会の集合的意識、社会心理的変容も大きく変化しました。ここでは学校教育を取り巻く構造的変動のなかで日本と韓国の子どものたちの学校生活の問題を取り上げて分析することにします。発表者と会場の参加者がともに問題に取り組み、当該社会の教育問題のメカニズムを解明し、問題解決の実践知の再構築につながることを期待します。



## ラウンドテーブル1

2014年6月29日(日) 15時30分～17時30分  
3号館3階 3301教室

1 テーマ クリティカル・スタディーズの近況報告と研究交流

2 コーディネーター・司会 野崎 与志子 早稲田大学

### 3 提案者

寺見 陽子 神戸松蔭女子学院

山本 雄二 関西大学

小暮 修三 東京海洋大学

井口 博充 大東文化大学

### 4 内容

大きな意味でのクリティカル教育研究に属する研究者が、現在進行形で行っている研究や今までの研究等の事例を基に、質疑応答等を通して研究交流を深める。子どもや若者文化、教育やメディア研究などにおける、今後の理論的動向、経験的研究の方向性等を探るために、活発なディスカッションを行う。クリティカル・スタディーズに興味を持つ新しい参加者からの視点を歓迎する。

## ラウンドテーブル2

2014年6月29日(日) 15時30分～17時30分  
3号館4階 3401教室

1 テーマ 紙芝居研究の現状と課題

2 コーディネーター 鬢櫛 久美子 名古屋柳城短期大学

3 司会者 川北典子 平安女学院大学

### 4 提案者・討論者 (アイウエオ順)

相澤 京子 鶴川女子短期大学

石山 幸弘 『紙芝居文化史』著者

奥 美佐子 神戸松蔭女学院大学

佐々木 由美子 東京未来大学

野崎 真琴 名古屋柳城短期大学

堀田 穰 京都学園大学

### 5 内容

今日、紙芝居活用の方は、幼児の保育だけでなく、高齢者の介護に、図書館での読み聞かせに、地域の絆づくりにと広がっている。また、紙芝居への注目は、日本だけでなく外国にも及んでいる。その一方で、紙芝居研究はどこまで進んでいるのだろうか。紙芝居に関心のある研究者が集まり、自由に語り合い交流することで、紙芝居研究の現状を把握し、今後の課題を探ることを目的とする。

### ラウンドテーブル3

2014年6月29日(日) 15時30分～17時30分  
3号館4階 3404教室

- 1 テーマ うたと語りで子どもとつながろう
- 2 コーディネーター・司会 鵜野祐介 立命館大学
- 3 話題提供者  
山田吟子 千葉市立美浜図書  
高橋今日子 茅ヶ崎市読書活動指導協力者

#### 4 内容

前々回(2012年、国学院大学)、前回(2013年、関西学院大学)に続いて、子守唄やわらべうたによる子育て・親育ちについて考えるラウンドテーブルです。今回は、千葉市立図書館でわらべうたやおはなしの普及活動に努めておられる山田吟子氏、神奈川県茅ヶ崎市で市の依頼を受けて幼稚園や小・中学校でうたや語りの活動をしておられる高橋今日子氏に、話題提供をしていただきます。またコーディネーター自身も「歌い語る声の力で子どもとつながること」の教育人間学的な意味について問題提起をさせていただきます。

休憩をはさんで後半は、参加者全員で「うたと語りによる子育て・親育ち」を支援していくための方策を中心に、自由な談論の場を設けたいと思います。当日は、『かたれやまんば』シリーズでも有名な「おはなしお婆さん」、藤田浩子氏もご参加くださる予定です。

子育て支援の活動や図書館サービスの活動にかかわっておられる方、保育や教育の現場でうたや語りの実践をしておられる方、その他「歌い語る声の力」に関心を持つすべての皆様のご参加をお待ちしております。

### ラウンドテーブル4

2014年6月29日(日) 15時30分～17時30分  
3号館4階 3406教室

- 1 テーマ  
子ども研究におけるチャイルド・ギャップー子どもの現実構成と科学をどう埋めるか
- 2 コーディネーター・司会者 望月重信 明治学院大学(名)
- 3 討論者  
春日清孝 明治学院大学非常勤講師  
木村治生 ベネッセ教育総合研究所  
細辻恵子 甲南女子大学

#### 4 内容

科学を端的に「野外科学」「実証・実験科学」「書齋科学」と分けた場合(川喜田二郎)①子ども研究とフィールドワーク(地域社会学)②子ども調査・統計に見る子どものすがた(子ども調査科学)③子どもの日常生活・日常的行為にみる生成と意味構成(文化の社会学)、それぞれの観点・立場から問題提起する。子ども研究の「拠り所」を模索する。

## ラウンドテーブル5

2014年6月29日（日）15時30分～17時30分  
3号館5階 3504教室

1 テーマ 子どもの「障害」研究をめぐる多様性—フィールドからみえてきたもの—

2 コーディネーター 吉澤 茉帆 ループサンパチ

3 司会者 鶴田 真紀 貞静学園短期大学

### 4 提案者・討論者

末次 有加 大阪大学大学院

吉澤 茉帆 ループサンパチ

羽田 野真帆 常葉大学

高田 純 広島大学

### 5 内容

2007年に特別支援教育が開始となり、本年で7年目を迎える。その間、特別支援教育を対象とした多様な研究もまた蓄積されてきた。本ラウンドテーブルでは、これまで特別支援教育に関連した何らかのフィールドを有し、社会的あるいは心理学的観点から研究を行ってきた討論者が、これまでの自身の研究をふりかえるなかで何を問題とし、いかなることを明らかとしてきたのかをそれぞれの立場から報告するとともに、子どもの「障害」研究をめぐる今後いかなる方向性があり得るのかをフロアと共に検討していきたいと考えている。



日本子ども社会学会 第21回大会 大会準備委員会

武内 清 (敬愛大学国際学部こども学科) (委員長)  
山本 陽子 (敬愛大学国際学部こども学科)  
佐藤 佳子 (敬愛大学国際学部こども学科)  
田中 未央 (敬愛大学国際学部こども学科)  
明石 要一 (千葉敬愛短期大学)  
新田 司 (千葉敬愛短期大学)  
清水 一巳 (千葉敬愛短期大学)  
住田 正樹 (放送大学)  
岡崎 友典 (放送大学)  
浜島 幸司 (同志社大学)  
佐野 秀行 (大阪人間科学大学)  
谷田川 ルミ (芝浦工業大学)  
山口 晶子 (聖徳大学 (非))  
小原 孝久 (上智大学 (非))  
鈴木 秀男 (台東区教育委員会 (非))

(メンバーは、敬愛大学、千葉敬愛短期大学、放送大学、上智大学 OB からなります。)

日本子ども社会学会 第21回大会 プログラム

発行 2014年5月10日

発行者 日本子ども社会学会 第21回大会準備委員会  
敬愛大学国際学部こども学科

〒263-8588

千葉県稲毛区穴川1丁目5番21号

TEL 043(251)6363 (代表)